

大学婦人協会東京支部

2008. 3  
第43号



- ・全国セミナー報告
- ・「人間回復の経済学」講師 神野直彦氏
- ・「アンチエイジング医学の現在と未来」講師 大内尉義氏

新しい年を迎えて



JAUW会長 田中 正子

昨年は、福岡総会で創立60周年を祝い、5月の守田科学奨励賞授賞式に始まり、国際奨励金の研究報告会、中村ミチコさんを偲ぶ会、コンサートおよび全国セミナー2007、そして新春のつどい、国内奨励金贈呈式と、東京支部の皆様の間ながらの細やかなご配慮とご協力によって、いずれもすばらしい時が持てたことを心から感謝いたします。

創立後60年を迎えて改めて組織のさらなる発展を願わずにはいられません。その鍵は、全国セミナー、および今進めている公益社団法人に向けての改革の二点にあると私は思っています。

全国セミナーは、2004年を最後に財政改革によって国庫補助が廃止された後、今後は自助努力で、隔

年に開催する方針が既に決まっております。2006年はその準備の年と位置づけ、この2年間の照準を「教育とジェンダー」に定め、学習会とシンポジウムを行いました。そこで出てきた、昨今の高等教育の動向、女子大・短大・女子高の課題、専攻分野の偏り、「ジェンダーからの解放とは」など多くの問題提起を受けて全国セミナー2007が開催されました。中等教育・障がい者の高等教育を含む高等教育周辺の課題がジェンダーの視点から語られました。(紙面の都合で詳細省略。報告書参照)

女性の高等教育推進を目的の第一に掲げるJAUWにとって、今後どのような活動をすべきに多くの示唆が与えられた2年間でした。

発展の二番目の鍵である公益法人改革については、三月号の会報「JAUW」に詳細が掲載されていますが、特別委員会では、奨励事業をはじめとする主要事業の点検を、公益性の視点で行っています。事業ばかりでなく人材の育成も急務です。高等教育が多様化している現在、会員資格の拡大も検討すべき時期にきています。皆様の叡智に期待します。

事業報告・予定

7	21	講演会(神奈川支部と共催) 「環境にやさしい酵素による有用物質の合成法の開発」 講師 松田知子氏
9	26	講演会「ゲド戦記とジェンダー」 講師 清水真砂子氏 見学会「皇居見学とパレスホテルでの昼食ⅠⅡ」 国内奨励金支援コンサート JAUW全国セミナー 於・津田塾会本館
10	19	第7回自然科学講演会(科学研究奨励委員会と共催) 「ドラッグデリバリーシステム(DDDS)の開発に化学ができること」 葉の副作用をなくすために」 講師 岩村道子氏
11	22	新春のつどい・国内奨励金贈呈式 講演会「アンチエイジング医学の現在と未来」 講師 大内尉義氏 (会員委員会との共催)サロ ンJ
12	15 24 23 22	「新入会員の要望と提言を聴く会」 東京、及び近隣の支部長を囲んで」 「ともしび」第43号発行
1	12	講演会「タブラ(太鼓)とシタール(弦楽器)の陽春のつどい」 講師 森山繁氏・国分明子氏 JAUW第51回通常総会 於・大阪
1	29	東京支部総会 記念講演「新しい家族紛争と司法手続の課題」 父母と子どもとの面接交渉をめぐる法的問題について考える」 講師 若林昌子氏
2	16	以後の事業は追ってお知らせします。
3	1	
3	24	
4	5	
4	12 6	

## 「全国セミナー二〇〇七

## 「教育とジェンダー」

(07・11・23、24)

## 参加報告

東京支部長 森川 淳子

11月23日、24日と従来よりは一月ほど遅い時期に、イチョウの美しい千駄ヶ谷駅前津田塾会5F会議室で「全国セミナー2007「教育とジェンダー」が開催されました。2年ぶりのことです。

一日目は152名、二日目は154名、セミナーに先立ち22日に津田ホールで行われた国内奨学金支援コンサート「女性作曲家を聴く」には約350名の方々の出席があり、またユーハイムで行われた懇親会には約100名が参加されました。

一日目は、天野正子先生の「女性の「ライフコースと教育」―ジェンダーの視点から―」の基調講演から始まり、女性にとつての「学び」は、リカレント型であつて、いつからでも再登場できるといふお話がありました。「奨学生は今―奨学事業の継承と展望―」では、おのおのの奨学生その後の活躍の様子のお話で盛り上がり、続いて若手会員育成金の研究

報告、IFJW総会の報告がありました。二日目は、7支部2委員会による研究発表、5人のパネリストを迎えてのパネルディスカッション「中等教育をめぐって」があり、フロアからも活発な意見交換がありました。盛りだくさんのプログラムが組み立てていましたが、どれもが中身の濃いものばかりでした。詳しい報告は会報JAUW228号をご覧下さい。22日のコンサートは、小林緑先生の40分のレクチャーから始まり女性作曲家のピアノ曲と歌曲の演奏がありました。

東京支部では、実行委員として参加協力をいたしました。



## 全国セミナーに参加して

私が全国セミナーに参加したのは当協会に入会してまもない8年前からで、その後もほぼ毎回参加してきました。初めて参加した時は、討論のスピードと、飛び交うカタカナ文字に戸惑うばかりで、正直、多くを理解できないままに2日間が過ぎてしまったという記憶があります。

今回のテーマは「教育とジェンダー」。基調講演「ライフコースと教育」に始まり、奨学生や若手会員の方々の話、各支部からは活発な活動や研究の報告、さらにシンポジウムなど、どれ一つをとっても、興味深いものばかりでした。

一日目の5人の奨学金受賞者との対談では、各分野で正に今活躍中の皆さまの、若々しく澁刺とした姿に感動しました。当協会の奨学生の層の厚さと、その実績を改めて知りました。

二日目の午後はシンポジウム「中等教育をめぐって」が行われました。教育の現場から、或いは行政の立場からと、それぞれの専門分野からの発言がありました。視覚障がい者の教育に携わる先生からは「ジェンダー以上にハンディを背負う子供達

だが」と前置きされてお話がありました。視覚障がいをもつ生徒たちの生き生きとした日常や、それを支え導く教育について、今まで知る機会がなかったことだけに、私は引き込まれるような思いで話を伺いました。

セミナー企画委員長からの案内にあった「今回のポイントは世代を超えたコミュニケーション」に加えて、私自身は、「分野を超えた」コミュニケーションをも実感しつつ、充実した2日間を過ごすことができました。

(福士 仁三代)



## 国内奨学資金支援

レクチャーコンサート

## 「女性作曲家を聴く」

(07・11・22)



レクチャー  
コンサート  
「女性作曲家を聴く」

ミナー前夜の十一月二十二日、津田ホールで開催された。取り上げられた作曲家はノルウェーのアガター・バックセルグレンダールとフランスのセル・シャミナードで、今年がグレンダール没後百年、シャミナード生誕百五十年という記念年にあたるといふ。

第一部は小林緑教授による講演「女性作曲家の受容をめぐる『女性』というだけで切り捨てられてきた無数の作曲家の存在。同時に今回の二人の無欲さも印象に残った。」

第二部前半はグレンダールの演奏曲。たおやかで優しく繊細な大須賀恵里さんのピアノ独奏「セレナーデ」から静かに始まり、続く本島阿佐子さんのソプラノ独唱では、なじみの

ないノルウェー語にもかかわらず、透明で清流のように澄んだ響きによって、ため息とも独り言ともとれるような世界に浸れた。アンコールでも歌われた「蝶々を追って」では、蝶々の羽の美しさと飛んでいる様子が目の前に浮かぶようだった。

後半はシャミナードの演奏曲。ピアノが体の一部と化したような花岡千春さんのピアノ独奏「タランテラ」はまさに毒蜘蛛の舞のようで、続着小泉恵子さんのソプラノ独唱は、ほとばしるような華やかさ、軽やかさと鋼のような鋭さで、特に最後の曲「夏」には圧倒された。



シャミナード

今回の貴重な企画。出会えたことに感謝の気持ちで一杯だ。



(桑折 美子)

## 〈東京支部講演会〉

(07・9・26)

## 「ゲド戦記とジエンダー」

講師 清水 真砂子氏



第1巻から第3巻迄は次々と発表され、一八八八年後に第4巻を経て第5巻が出版されているが、三〇

年間もの長い期間を要した作品は原作者の人生観の変遷であり、人生への問いかけ、考えていた時期などが翻訳者清水先生ご自身にも重なっていたとのことでした。翻訳する際に、選択する言葉の使い方、肌触り、特に女性にしか使われない言葉へのこだわり、現実にはない植物の翻訳に苦労されたとのことでしたが、言葉にはその人の歩んで来た道程や眼差しが反映されるのではないかとこの指摘がありました。

第4巻以降は、名前を奪われ闇の中で育てられた少女テナーが自己を

回復し解放することができるとなると、火傷を負った醜い女の子テラー、主人公ゲドと三人で家庭を作り再生していく姿を通して、生殖能力や美貌、何ひとつ女として誇れる物がない女にとつて、どうしたら卑屈にならないで生きていくことができるかと問いかけている。子供を排除した所で本当に豊かになれるのか、成熟したフェミニズムとは最も弱い部分、底辺の者にしっかりと耳を傾けなければいけない。ただ声高に女たちが戦うのではなく両性が豊かになるまで次世代を先導できる女性でありたい。児童文学者であり、大学教授として日々女子学生との交流の中から感じられている先生の温かな人間性から発せられる力強いメッセージをいただいたように思います。

オックスフォード大では1960年代まで男性社会であった事実にも触れ、ミスポターが菌類に関するすばらしい発見をしたが、女性である故にその論文が認められなかった興味深いお話も伺うことができました。

(下村 辰枝)



「楽しい俳句会」の展示も行いました

## 〔東京支部講演会〕

(07・6・20)

## 〔人間回復の経済学〕

講師 神野 直彦氏

東京大学大学院経済学研究科教授の神野直彦先生の講演会が6月20日(水)開かれた。先生は皇太子様へスウェーデンの教科書の詩をご進講したこともつとに有名である。

初めに「経済とはなにか?」で、経済とは地球上の有限資源である自然を使っていかに人間を養うかということとお話下さる。経済とは金融に関するお話かと思っていた私の頭をほぐして下さりながら、日本の経済が求める道について、スウェーデンと日本の比較をされて、お話を進められた。行き詰まったケインズ経済、少子高齢化の日本の税金は如何にすべきか、ヨーロッパの国々との比較をしながら、現在の日本の問題点を浮き彫りにされる。

日本へのそうした示唆の中に心に残るお話があった。

例えばスウェーデンでは、教育の基本を一番弱い人に合わせているということだった。学校では必ず冬に登山をするそうだが、生徒達は一番

弱い人に合わせて登山のペースを決めるとのこと。今の日本ではその精神が抜けているのではないか?競争社会、実力主義、グローバル化という

言葉によって弱者は脇にやられ、地方や国民の間には経済格差がどんどん広がっている問題点を提示された。

最後に、神野先生が皇太子様へご進講された感動的な詩の一節を紹介させていただきます。

批判ばかりされた子どもは 非難することをおぼえるく 中省略く可愛がられ抱きしめられた子どもは 世界中の愛情を感じ取ることをおぼえる。ードロシー・ロー・ノルト「子ども」より

(端本 和子)



## 〔神奈川支部 東京支部〕

共催 講演会・座談会

(07・7・21)

## 〔環境にやさしい酵素による有用物質の合成法の開発〕

講師 松田 知子氏

七月二日(土)午後二時から四時三〇分まで横浜市市民活動支援センターにおいて、〇

六年度守田科学研究奨励賞を受賞された松田知子博士(東京工業大学大学院生命理工学研究科専任講師)による講演会が開かれた。



松田博士のご専門は「有機化合物の合成法の開発」である。と言われても素人には理解が難しいが、例えば医薬品を製造する際、その過程で大量の廃棄物が放出される。つまり人間の健康や豊かな生活のためにあるべき科学が環境破壊をまねくことになりかねない。この二律背反を解決し、地球環境を守りつつ持続的に

科学を進展させるにはどうしたらいいか。

松田博士は、廃棄物をできるだけ出さないために、合成反応の「触媒」として通常の有機金属化合物ではなく「再生可能な資源」である「酵素」を用いた。また「溶媒」としても、二酸化炭素を高圧化することにより得られる「超臨界二酸化炭素」を用いて有機溶媒を利用しない合成法の開発を行った。

地球温暖化や環境汚染など諸悪の根源である二酸化炭素をいわば逆利用する合成法の開発とは、何とユニークな発想だろう。化学反応の細部については皆目わからないながら、博士の発想の素晴らしさとその成果の可能性には目を見張った。

後半の座談会では「教育とジェンダー」をめぐって科学する女性の現状や課題が浮かび上がった。松田博士は高校から大学までアメリカで過ごされた。実験や課題研究を重視するアメリカの教育のありかた、優れた女性科学者がロールモデルとして身近に居ること、多民族社会では日常的に自己表現が訓練されることなど、参加者一同、ひるがえって日本の教育について深く考えさせられた。

(神奈川支部・鷺見 八重子)

## 〈東京支部講演会〉

(08・1・29)

## 「アンチエイジング医学の

現在と未来」

講師 大内 尉義氏



東京支部  
委員会が長  
期に亘り準  
備した企画  
がタイム  
リーに開催  
されました。  
文藝春  
秋二月号に  
「不老革命  
―アンチ・エイジングの衝撃―」知  
の巨人たちが論じ尽くす」として  
二十頁に及ぶ議論が掲載されまし  
た。その論者の一人、大内尉義先生  
から直接お話を伺えたことはたいへ  
ん幸せなことでした。

盛り沢山のご講演内容のごく一部  
身近なテーマをメモしてみました。  
加齢に抗うことはできない。加齢  
によっておこる諸症状を治療、予防  
し、生活の質を高めようとする。抗  
老化であり、その仕組みの全貌解明  
はもう少しのところでまできている。

日本の女性は長寿とはいえ、要介  
護期間が長く(06年データ、9.1年)  
7年の男性よりも健康寿命は短い。  
女性は骨粗鬆症、認知症に罹る率が  
高いからである。これらは、生活習  
慣の見直しで予防が可能であり認知  
症に関しては経口ワクチンの開発普  
及が進み、今後十年位で治療できる  
病気になるだろうとのこと。

クオリティ・オブ・ライフ(QOL)のある長寿を生きたためのアド  
バイス―腹八分目の食事・適度な運  
動・村人交流(家族間も)・知的行動  
習慣・繊維食品・カルシウム(900、  
1000mg・塩分(6・10g・適度の水  
分・サプリメントは医学的根拠のあ  
るものを。美容、エステは見かけ上の  
ものでも本人の積極性次第で有効。  
会場はみごとにQOLを体現して  
いる参加者が満室でした。これから  
もお互いに気をつけていきましょう。  
う。京都からの参加もあり、うれし  
い限りでした。カレーで華麗に加齢  
しましょう」と、  
大寒も退散(笑)  
の熱さで閉会と  
なりました。

(三浦 由紀子)



水墨画の展示も行いました

## 科学研究奨励委員会

〈東京支部〉

お茶の水女子大学

共催

(07・12・15)

「ドラッグデリバリーシステム  
(DDS)の開発に化学ができること

―薬の副作用をなくすために―

講師 岩村 道子氏

恒例の自然科学講演会が、12月15  
日岩村道子会員(東邦大学名誉教授)  
を講師に招いて科学研究奨励委員  
会、お茶の水女子大学との共催で行  
われた。岩村会員は、東京大学理  
学部化学科を昭和38年に卒業後、同大  
学院に進学、昭和43年に理学博士を  
取得、その後、東邦大学理学部で平  
成18年まで教鞭をとられた。有機化  
学の分野で活躍され、この数年、副  
作用をなくす薬の開発に工夫を重ね  
てこられた。薬の開発に化学の視点  
で何ができるのか、岩村会員の研究  
も含めドラッグデリバリーシステム  
(DDS)が分かりやすく紹介され  
た。

岩村会員は、新しいデンドリマー  
を創成し、光を切断法としたDDS  
の開発を推進しており、このデンド  
リマーを薬のパッケージとして利用  
する方法の斬新さに多くの関心が寄  
せられた。

薬の副作用自体は本質的な問題で  
あるが、ターゲットングするDDS  
を利用することで不必要な副作用は  
軽減できる。このDDSとして、標

洗濯バサミを使って  
分かりやすく説明

(お茶の水女子大学 今野 美智子)

〈財務委員会主催バスツアー〉  
MOA美術館と起雲閣

(07・10・30)



久し振りに  
さわやかな秋  
の一日、静岡県熱海市のMOA美術館と起雲閣を見学

のバスツアーに参加しました。早朝、渋谷の集合場所から何とベントツのバスでゆったり快適に出発です。

まず最初はMOA美術館に到着。山の斜面に作られた延々と続くエスカレーターと不思議な光の中、広場へ出て入館です。黄金の茶室、特別展と常設展、光琳屋敷を見て、少し庭園を散策しました。国宝の色絵藤花文茶壺(野々村仁清作)も見ることができました。  
次は、昼食に新鮮なお魚をいただく。

き、無添加、天日干し、工場直送の干物をおみやげに購入。

午後は、大正年間に建てられた熱海市指定有形文化財の起雲閣の見学です。最初は個人の別荘でしたが、所有者が変り、建て増しが行なわれ、戦後は旅館となりました。志賀直哉、山本有三、谷崎潤一郎、太宰治等の著名人にも愛用され、熱海の市街地とは思えない緑豊かな和風庭園と日本家屋の美しさに圧倒されました。

内部の古い部分は、和洋中の装飾が独特にまざりあい同じ一つの部屋にあるという不思議な空間でした。宿泊客用の部屋は別に有りましたが、現在は市の管理・運営ということなので、市民のための展示・貸出が行なわれているということでした。

数日前から風邪気味で体調の悪い中の参加でしたが、新鮮な空気と良い景色、美しいものを見て、すっかり元気になりました。

(田辺 範子)



私たちのサークルに  
入りませんか?

「源氏を読む会(Ⅱ)」

中山 律子



の女性たちの生き方や美意識、そして個性に興味を感じます。

「あなたはこの女性の生き方が好き？」話は急に盛り上がります。学生時代学んだ文法解釈にとらわれた源氏物語とは全く興味を異にします。貴族社会の儀礼や習慣、そして伊勢物語、古今和歌集との関わり、先生の説明は面白く広範囲に渡ります。

現在は「雲隠れ」の後、光源氏の子孫の時代となり、舞台が宇治へと移りました。

「大学婦人協会の方が理想とする、自己をはっきり認識する女性が登場してきますよ!」とのこと。宇治十帖をゆつくり読んでいきますので、今からでも十分楽しむことができます。

今年の秋には、源氏物語の中の「関屋」「真木柱」「浮舟」「蜻蛉」の巻に登場し、又紫式部が物語を書くために参籠したといわれる石山寺や宇治十帖の舞台となった京都宇治への旅が待っています。現代の雑踏を忘れて、平安の世の夢を一緒に見ませんか。



平成十二年五月「いづれの御時にか」と源氏物語を読む会(Ⅱ)が始まりました。三月三日十年の計画に最後まで元気な読み終えるだろうかと不安に思いつつ、「桐壺」から「幻」の巻までの主人公光源氏は藤原氏全盛の世に天皇家の血筋を引くヒーロー。とかく恋多き貴公子の話としてとらえられがちですが、六条院を舞台とした、多く

## 新春のつどい 国内奨学金贈呈式

(08・1・12)

一月十二日京王プラザで今年度の奨学生を迎え新春のつどいが開かれた。時代の閉塞感を突破できるのは女性の力ではないかと言う田中会長の挨拶のあと、奨学生選考の過程について簡単な報告があった。私たち国内奨学委員会のメンバーは、毎年十月に少し緊張した面持ちで事務所の一室に集まり、応募者の書類に目を通し率直に意見を交わし厳正かつ公平に奨学生を選出する。この新春のつどいで奨学生に出会うことは、とても楽しみなことの一つである。

当日出席した奨学生は受賞に感謝の意を述べ、研究内容や将来の希望について語ってくれた。中でもポブラの細胞を研究しているアフガニスタンからの留学生であるタフシラさんが、繰り返された戦争で失われたポブラを再び祖国に植えるという夢を抱いているという話は、世界が平和であることの大切さを私たちに思っておこさせた。社会福祉奨学生のお二人の前向きなエネルギーに私たちは励まされる思いがした。

ミニ・コンサートは薩摩琵琶と琴による荒井靖水、美帆ご夫妻の演奏であった。琴の音は新春にふさわしい妙なる調べで私たちを包んだ。一九九一年に作られた西洋音階を奏する二十五弦の琴も披露された。靖水氏の軽妙なおしゃべりで薩摩琵琶が紹介されたあと、短縮版の「巖流島」が演奏された。最後はおふたりの伴奏で昨年来大ヒットの「千の風になつて」を参加者全員で大合唱。

その後おいしい中華料理を頂きながら奨学生を囲み楽しい語らいのひとときを過ごした。

(牛山 通子)



※この奨学金の一部として東京支部から十万円を寄付しています。

## 今年度からの新委員

「どうぞよろしく」

様々な大学出身の、有能な方々と一緒に活動できる機会に恵まれることになりましたことに感謝いたします。新会員といたしまして、エヴァーオンワードの精神で細々ながらも歩めたらと思います。ご指導の程何卒よろしく願っています。

野口 紀美子

## サークル紹介

### ★英語講座

- 第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- 大久保地域センター三階

- 講師・松本節也元法政大学教授

「さし絵入り英国史」を講読中。

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。

- 連絡先・中山正子

(☎〇四五―五四―二四八二)

- 楽しい俳句会

● 第三水曜日 午後一時半～三時半

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・柴崎富子会員

柴崎先生の熱心なご指導のもと楽

しく俳句を作っています。メンバーを若干名募集中です。

- 連絡先・小池朋子

(☎〇四五―九〇二―九七三〇)

- ★源氏物語を読む会 (I)

- 第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「早蕨」を読んでいます。

- 連絡先・平田宏子

(☎〇四一七―四三―一五七三)

- ★源氏物語を読む会 (II)

- 第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

宇治十帖「早蕨」に入りました。

- 連絡先・中山律子

(☎〇三―三三三―三六―四六二八)

- ★水墨画教室

- 第二木曜日

午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・日高絹子(絹紅) 会員

- 初心者歓迎

若干名余裕があります。

- 連絡先・森川淳子

(☎〇四五―五八三―三四三〇)

2008年  
東京支部総会のお知らせ

・四月十二日(土) 一時～二時  
・津田ホール内会議室(千駄谷駅前)  
・記念講演 二時半～四時

「新しい家族紛争と司法手続きの課題―父母と子どもの面接交渉をめぐる法的問題について考える―」

講師 若林昌子氏(首都大学東京 法科大学院非常勤講師)

【講師紹介】甲府地裁、東京家裁、福岡家裁(所長)等の判事を歴任、明治大学法学部法科大学院教授を経て現職。同志社大学卒。

(著書)共著「家事事件手続法」(有斐閣)他、家庭裁判所における多岐にわたる判例評釈等家裁月報・判例タイムス・法律時報等に多数。

長い間家庭裁判所で判事をされておられたご経験から「児童の権利条約と国内法との関係、面接交渉の判例を手がかりに、最近の家族紛争の特質・傾向について分析し、これに因應る司法手続の課題を考えたい。」とのメッセージをいただいております。最近多発している家庭内でのさまざまな問題についてお話いただけると幸いです。

※支部会員外の方も誘い下さい。

参加費無料。

※支部総会については、別紙にてお知らせいたします。

2007年度東京支部新入会員(敬称略)

(2008年1月現在)

氏名		出身校		氏名		出身校	
浅倉	つ子	東都	院島女	岸田	子緑	茶	院女女院京
日高	美子	鹿鹿	児	小林	子紀	芸	・
野工	貴子	日	茶	藤元	子史	教	・
平植	佳里	茶	東芸	小藤	子里	東	早
柏木	子恵	東	聖	小廣	子明		
嶋田		茶	茶	三			

謹 弔(敬称略)

氏名		出身校		氏名		出身校	
中村	ミチコ		津				
				2007年6月16日 逝去			

東京支部委員募集

東京支部の運営をお手伝い下さる方を募集しています。  
事務所 ☎03-3358-2882にご連絡下さい。  
お待ちしております。

支部員募集

東京支部の会員が減少しております。ご家族やご友人への勧誘を是非お願いします。

★ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切富子氏 一万円

源氏物語を読む会(Ⅰ) 五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ) 五万円

楽しい俳句会 一万円

英語講座 五千円

水墨画教室 一万円

★寄付しました。

国内奨学金 十万円

国連難民高等弁務官事務所 五万円

◆会費納入のお願い

会費未納の方は、早めにお振り込み下さい。

◆住所変更などのご連絡は事務所までお願い致します。

◆未使用のプリペイドカード、書き損じのはがき、切手(使用済み・未使用とも)など事務所までお送りください。

(編集後記)

おだやかな春の一日、皆様のご協力により、ともしび43号を無事発行することができました。明るい一年でありますように祈っております。